

ご理解いただくための取り組み

各種メディア等への迅速・丁寧なご説明・情報提供を継続しておこない、ご理解いただけるよう、取り組んでおります。

福島第一原子力発電所ご視察を活用したご説明

国内外の有識者等に発電所をご視察頂き、地下水バイパスを含めた水処理対策をご説明しております。

また、報道関係各社に対しても直接取材して頂く機会を設けております。

【直近では6月11日(国内メディア)・12日(海外メディア)に公開を予定]

当社会見を活用したご説明

東京(毎週月・水・金曜日)・福島(月曜日から金曜日まで毎日)での会見を通じて、報道関係各社に対し、適宜、地下水バイパスのご説明を行っております。

国・メーカー・当社で連携し廃炉に向けた取り組みを協議する廃炉対策推進会議の事務局会議や毎月の県漁連組合長会議にてご説明した資料は、会見でご説明すると共に、ホームページに掲載し、広くお知らせしております。



水産庁記者クラブでのご説明

5月21日、水産関係のメディア各社を対象に会見を行い、地下水バイパスの概要や地下水と汚染水の違い等について、ご説明させて頂きました。

日刊水産経済新聞:5月23日掲載記事
「この取り組みは、汚染されていない地下水を迂回させるもの」



当社ホームページへの説明・解説資料の掲載

当社ホームページに、分かりやすい説明・解説資料を掲載いたしました。
(以下は「地下水バイパス」に関するご説明資料。5月29日より掲載。)

検索 東京電力

東京電力からのお知らせ
地下水バイパスの取り組みについて(汚染水を増やさないために)
平成26年6月29日

汚染水問題については、社会の皆さまにご心配をおかけしており、心より深くお詫言ひ申し上げます。今回は、地下水バイパスの取り組みについて、東京電力から解説いたします。

○発電所構内では山側から湧出と向かって地下水が流れており、その地下水の水質は、放射能濃度が十分高いと確認しています。

○地下水バイパスの取り組みは、こうした地下水が原子炉建屋に流入する前に汚染となる前に、山側で汲み上げ、その流れを変え、その流れを流すことにより原子炉建屋への流入量(汚染水)を減少させるものです。

- 山側から湧出と向かって発電所構内を流れている地下水が原子炉建屋に流入しており、汚染水が増え続ける原因となっています。
- そこで、地下水が原子炉建屋に流入する前に、山側で地下水を汲み上げ、その流れを変え、その流れを流すことにより原子炉建屋への流入量を減少させる「地下水バイパス(参考1)」の取り組みを進めています。
- 地下水バイパスでは、山側で汲み上げた水を一旦タンクに溜め、都立、海辺河川と同等レベルである許容日常値(1ベクレル/リットル)を下回っていることを確認します。
- これまでに、地下水を汲み上げるための井戸(揚水井)、汲み上げた地下水を水質確認するための専用タンク、地下水を移送する専用の配管を設置しています。また、揚水井と一時貯留タンクに溜めた地下水の水質検査を実施し、放射能濃度が十分に低いことを確認しています。(参考2)

(図解1) 地下水バイパス

地下水バイパスは、山側に地下水を汲み上げ、汚染水を増やさないように原子炉建屋への流入を抑制する仕組みです。

①一般のタンク(汚染水貯留) ②一般のタンクへ汲み上げ ③一般のタンクへ貯留 ④一般のタンクへ移送 ⑤一般のタンクへ貯留

山側 地下水の湧出 揚水井 汚染水貯留 原子炉建屋 経路 海

福島県 原子炉建屋に流入する前に地下水を汲み上げ

一般のタンクから一時貯留タンクへ移送

一般のタンクへ貯留

一般のタンクへ貯留

山側